

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472100488		
法人名	医療法人二豊会 国見病院		
事業所名	グループホーム 向日葵		
所在地	大分県国東市国見町竹田津3625		
自己評価作成日	令和3年6月 9日	評価結果市町村受理日	令和3年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様はそれぞれに残存機能を有しており、現状の機能を維持していけるような訓練、特に下肢筋力が低下しないような運動に重点をおいている。また、誤嚥性肺炎予防のための嚥下体操を各食事前に行ってもらっている。それと日中(昼食後以外)の時間は、基本的にホールで過ごしてもらい、レクの種類(選択肢)を増やし、活動的に行動してもらうようにしている。(可能な限り、その居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように配慮されなければならない) ・入居者様の健康状態には常に注意を払いながら、家庭的な雰囲気の中で安全に、そしていつも楽しく笑顔を絶やさずに暮らしていただけるように、職員一同が職場環境を整えるようにしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・母体が病院で密に連携が取れている。 ・緊急時や急変時に素早く対応ができ家族の安心に繋がっている。 ・残存機能を維持していける様、訓練に力を入れている。 ・家庭的な雰囲気の中でのおんびり時間が流れている。 ・グループホームの隣が広く大きな桜の木があり季節のうつろいが感じられる静かな環境。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自に理念をつくり、毎日のミーティングや毎月の職員会議等で介護の基本・運営理念に沿っての共有化を図っている	理念に笑顔・親切・安らぎの3項目をうたい独自の10ヶ条を設けレベルを上げる様職員とコミュニケーションを取りながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当地区の区長・民生委員等の皆様が育てているお花畑に毎日のように散歩に行く コロナ禍でのお接待を入居者家族から弘法様を借りて施設内限定で実施している(2年間)	グループホームの広報紙を地区内に配布し、地域との連携を大切にしている。近場の地区花畑に散歩を兼ね日常的就出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月1回開催の国見町ケアマネ会議にて各ケアマネたちと情報や意見交換を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状態や日常生活での取り組みや変更点、開催月前後の行事等を説明し、委員からは地区の状況を伺い、家族代表からは意見を聞き取る	区長・民生委員・老人会・家族・包括が出席「コロナ禍で面会が出来ない」等の意見もある中、区長がパイプ役となりスムーズに連携が取れ、意見をもらえる様にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	国東市地域包括支援事業所国見支所職員にメンバーとして参加してもらい、意見を伺うなどしている	区長を通じ連携が取れやすく包括の職員に意見を伺う事も多く、現状報告や相談も出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての勉強会を定期的実施し、職員全員が入居者の安全を第一に考えて行動するべく、見守りやこまめな声掛けを徹底するようにしている	身体拘束の委員会を設け勉強会をしている。利用者の立場になって考える様、管理者も言葉の拘束について気付いた時は個別にも話し、理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束防止のための勉強会を開催し、各職員と話し合い、未然に防ぐ為の方法を常に検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用してる方が現在いないが、このような制度があることや内容を話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時にご家族等へ詳細に説明を行います。疑問等はその場でわかっていただくよう説明しています。また、内容の変更がある場合は事前に説明し書にて同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時はできるだけご家族の意見や要望を聞き、改善できることは速やかに対応するように全職員と情報の共有を行っている	家族にはケアプランを送る時、状況を報告し、意見をもらう様にしている。気になる事があれば電話をくれ、出された意見・要望は話し合い、支援に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、毎日朝・夕のミーティングで各職員からの改善提案を募り、協議しできるだけ職員の意見を反映させるようにしている	職員より改善提案があればミーティングで話し合い管理者から事務長へ報告、意見を伺い、反映出来る様努めている。	提案、ミーティングの内容、対策について細かい事項も含めて記録に残し検証することを希望する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営形態(労務関係、給与、福利厚生)は医療法人二豊会で管理しており、当施設内での職場環境は、職員が働きやすいように改善を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や勉強会に参加したときは事業所に持ち帰り、資料を回覧し職員に周知徹底するようにしている コロナの影響で法人内での勉強会は未実施である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	国東市や国見町のケアマネネットワークに参加し、勉強会や情報交換に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の相談に来た時にはご家族と共に話を伺い、ご本人の不安や困っていることを把握し、思いを受け止め、対応できるように心掛け、安心できる関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の場合と同じく、入居希望の相談時には必ずご家族の不安や困っていることを把握し、思いを受け止め、安心できる関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に向けての相談を受けた時より、ご家族が困っている事、不安な事、要望等を伺うまた入所してからもいつでも対応できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、その方に本当に必要なサービスを見極め、過剰に手を出さないようにする、またできることはなるべくしてもらおうようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の持っている力を見極め、やれることや出来る事は行なってもらいよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在がコロナ禍であり面会には制限を設けており、窓越しで互いにマスク着用で、距離を置いて実施してもらっている 電話での会話は随時対応できるように努めている	コロナ禍での面会が思う様に出来ず、ガラス越しや電話での会話は随時対応出来る様努めている。近場の家には希望があれば仏様参りに同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶の時間や機能訓練、レクリエーション等利用者同士が皆で楽しく過ごせるよう関わりあい、支え合えるように支援している また、利用者同士の会話の時間も大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所(サービス終了)後もご本人やご家族から再入所の希望を聞くこともあるので、引き続きお付き合いができるように心掛けている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人の言動等に気をつけて希望や意向の把握に努めて職員間で情報の共有ができるようにしている	日々のかかわりの中で声掛け、把握に努めている。家族や関係者からの情報をミーティングで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の前後にご家族から今までの生活歴や既往歴を伺い、把握に努めている またサービス開始時にそれまでの情報を市や関連施設から取り寄せている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりをよく観察し、いつもと違う様子が見られれば現状の把握に努め、職員間で情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員等でモニタリングし、担当者会議で話し合い、変化等があった場合には介護計画に反映している	3カ月に一回のモニタリングで日頃のかかわりの中での思いや意見を聞き、反映させる様にしている。 変更後は家族に報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録やミーティングに於いて各職員より情報を収集整理し、職員間で情報の共有をしている 変化があった場合には介護計画の見直しに生かしていく		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の病院に入院した場合は洗濯や必要な物を届ける等ご家族の負担の軽減に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当地区は利用出来るような地域資源が少なく、またコロナの影響でサロン等も閉鎖しており、十分な支援が行えていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人にて、病院とは常時連絡が取れ、医療が受けられるようになっている 歯科についても町内の歯科医院の協力を得て適切な治療が受けられるようになっている	本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。 受診は管理者同行で対応し、様子や変化を家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人の看護師にいつでも連絡できる体制が整っており、小さなことでも気づいた事は報告するようにしている、また、受診時でなくても、気になる事は相談し、受診すべきかどうか等アドバイスをもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して過ごせるように支援情報を提供しており、また病院側から途中経過や回復状況・退院等の情報を随時受け、ご家族とも連絡を取りながら退院支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期の意向を聞いており、また法人の病院とは常に連携を取り定期受診以外でも主治医との連携を密にしている 家族には変化した状態を随時連絡説明するようにしている	入居時に説明をし意向や希望を聞いている。重度化に伴う状態悪化の場合は入院させ、みとりはしない。 家族の意向に沿う様、連携し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療法人なので、急変時や事故発生時は母体病院に連絡することになっており、また施設長にも連絡し詳細を報告する 防災訓練時、消防署員から通報や避難について学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行っており、常にスタッフ全員が防災意識を身に付けている	マニュアルがあり防災訓練は年2回行われ地域の協力体制については地区の消防団が5分程で来れるという。 職員は防災意識を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の申し送りや職員会議等により一人ひとりの尊厳・プライバシーを損ねない対応の方法を話し合い、実行するよう努めている	基本は家と同じで接客ととらえ敬語、尊敬を基に不適切な言葉づかいがあれば個別に話し、ミーティング時にも話し合い、尊厳を守る様努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から行動を押し付けることはせず、入居者の意向を聞くように努め、本人の意思に沿い自己決定できるように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者本位を考え、各々のレベルに合った選択肢を用意し、そこから選んで貰ってできるだけ個別に支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えや夜のパジャマ等はそれぞれご本人に選んでいただくようにしている また、清潔感が保てるように爪切りやヘアカット等にも気をつけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は簡単な作業(大根おろしなど)をしてもらい、つわぶきや芋づるをむいてもらっている 後片付けやテーブル拭きをしてもらっている	献立は母体の病院の栄養士が献立を立て食材も母体で用意。 調理は交代で職員が作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人管理栄養士の元で献立を立ててもらい提供している 水分・食事摂取量はケア実施記録に毎日記載し、水分摂取不足が起こらないよう状態を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症や誤嚥予防も考慮し、口腔ケアの重要性を全職員が理解し、一人ひとりに応じた歯磨きの手伝いをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が困難な方が数人いるが、できるだけトイレ誘導するようにしている 排泄チェック表にて排泄のパターンを把握できるように努めている	自尊心に配慮しトイレ誘導している。 排泄チェック表にてパターンを把握し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足解消のための運動強化、水分摂取量の管理等をしなが便秘の予防に努めている 便秘がマンネリ化している方への対応は医師の指示を仰いで対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のローテーションは決めているが、当日入浴拒否をされるの利用者には無理強いせず、翌日入ってもらえるような対応をしている	基本週2回が入浴日。希望には対応している。嫌がる利用者も気分が変わるまで支援する様努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり眠れるように夜間の室温管理等に注意しており、布団干しは晴れた日に外に干し、気持ちよく眠れるように気をつけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を用い、確実な服薬を支援している 薬に変更があった場合は申し送りやケア記録等にて全職員で情報を共有できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆(特に女性)は家事等の手伝い(役割)を楽しみにしているので割り当てるようにしている、レクリエーションも好きなことができるように選択肢を増やして支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で密になる場所への外出が難しくなり、1ヶ月に2回の受診時に遠回りをしたり、花見ドライブに出かけるようにしている 個別の希望に沿っての外出も、現状は支援できていない	コロナ禍で外出自粛が続いているが、病院受診を兼ねドライブしたり花畑までの散歩などに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者同士のトラブル予防の為、家族にも了承してもらい現金は所持しないようにしてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分から電話をしたいと希望された場合は、ご家族等の都合を事前に聞き、予定の時間に電話して会話してもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	原則的にバリアフリーであり、段差も無く移動しやすくなっている 各居室のTVのボリュームには注意している(難聴の方は音量を極端に上げる) またホールの壁には入居者の塗り絵や季節合った作品を飾っている	バリアフリーで移動しやすくなっている。 ホールにはソファが置かれ、テレビを見たり、壁には利用者の作品が飾られ明るい雰囲気作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ2台をセットしており、また座敷もあるので気のあった方たちが集まったりしては一緒に会話をするなどしてつろいでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族には「今まで使っていた物や好みの物を持って来てください」と伝えており、家族の訪問前に必要なものがあるかをご本人に聞くようにしている	部屋はシンプルだが個々の希望や家族の意向で整えられている。落ち着ける空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	起床から就寝までのタイムテーブルがあり、それらには全員参加してもらっている それ以外は基本的に各入居者の行動は束縛せず、自由に行動してもらうようにしている		